

作成日2010年12月30日
改訂日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	クロロ-IPC
会社名	保土谷UPL株式会社
住所	〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目14番5号
担当部門	営業部
電話番号	03-6225-3194
緊急連絡電話番号	03-6225-3194
FAX番号	03-6225-3197
メールアドレス	hodogayaupl@hodogaya-upl.com

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	分類基準に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分外 急性毒性(経皮) 区分外 急性毒性(吸入:粉じん) 区分4 皮膚腐食性/刺激性 区分外 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2B 生殖細胞変異原性 区分外
環境に対する有害性	水生環境急性有害性 区分2

GHSラベル要素 シンボル



注意喚起語	警告
危険有害性情報	H332 吸入すると有害 H320 眼刺激 H401 水生生物に毒性

注意書き 安全対策

粉じん、ヒュームを吸入しないこと。(P260)
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。(P271)
環境への放出を避けること。(P273)

救急措置

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)
気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
一般名

単一製品
イソプロピルN-(3-クロロフェニル)カーバメイト

成分	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号		CAS番号
		化審法	安衛法	
イソプロピルN-(3-クロロフェニル)カーバメイト	>=99 %	(3)-3217		101-21-3

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。
医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、一般の泡消火剤、二酸化炭素、砂、噴霧水

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の消火方法

ガスの滞留しない場所で風上より消火し、漏洩防止処置を施す。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
高温または燃焼により一酸化炭素、窒素酸化物、塩素化合物等の有害ガスを発生するので、消火作業には呼吸保護を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
風上に留まる。
作業者は適切な保護具(『8. 暴露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
低地から離れる。
適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
密閉された場所は換気する。

環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収・中和	物質を吸込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。 不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 掬い取るか、適切な吸収材によって水表面から除去する。分散剤を使用してはならない。
封じ込め及び浄化方法・機材	物質を固化して掻き取る。 本製品は水に浮かぶため火災の危険がある。可能ならば、浮いている製品を封じ込めるよう努める。 除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。 蒸気は水噴霧で制御できる。液体が蒸発して更に多くの蒸気を発生させるため、水流はその液体の方に向けないほうがよい。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 滑らかな滑りやすい表面を床上に形成するので、完全に取除くこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
	安全取扱い注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 排気用の換気を行うこと。 環境への放出を避けること。
保管	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	混触危険物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	保管条件	施錠して保管すること。 容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
	容器包装材料	最初の容器内でのみ保管すること。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	工程の密閉化、局所排気その他の設備対策を使用する。 高熱取扱いで、工程で粉じん、ヒュームが発生するときは換気装置を設置する。 高熱取扱いで、工程でミストが発生するときは、換気装置を設置する。 高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは換気装置を設置する。 本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置した
------	---

ほうがよい。

保護具	呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。 防塵マスク、簡易防塵マスク
	手の保護具	保護手袋(ゴム製、プラスチック製)
	眼の保護具	ゴーグル型保護眼鏡
	皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。 ゴム前掛け、長袖作業衣
衛生対策		取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	形状 色 臭い	結晶 白 無臭		
融点		39.1 ~ 39.5℃		
沸点、初留点及び沸騰範囲		261.0℃		
溶解度		103mg/l		
蒸気圧		0.000213hPa	温度	25℃
比重(密度)		1.21	比重温度	20℃
オクタノール／水分配係数		3.8 (25℃)	区分	実測値
分解温度		450℃以下で安定		
その他		溶解度 エタノール;>1000g/L アセトン;>1000g/L メタノール;>1000g/L		

10. 安定性及び反応性

安定性	一般的な貯蔵・取扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性	自己反応性、酸化性、自然発火性、水との反応性、いずれもなし。
避けるべき条件	日光、熱、火炎、高温物、スパーク、静電気、その他発火源
混触危険物質	酸、アルカリ
危険有害な分解生成物	燃焼あるいは高温により一酸化炭素、窒素酸化物、塩化水素などの有害ガスが発生する。

11. 有害性情報

経口 経口(根拠)	LD50 マウス♂ 3,580mg/kg 製品の急性毒性(経口)値が、LD50: 3580mg/kg(マウス♂)のため 急性毒性(経口)一区分外とした。
経皮 経皮(根拠)	LD50 ラット >4,000mg/kg 製品の急性毒性(経皮)値が、LD50 >4000mg/kg(ラット♂♀)より、 急性毒性(経皮)一区分外とした。
吸入: 粉じん(根拠)	製品の急性毒性(吸入: 粉じん)値が、LC50: 1.68~2.33mg/L(ラット♂)より、 急性毒性(吸入: 粉じん)一区分4とした。

皮膚腐食性／刺激性(根拠)	皮膚一次刺激性試験(ウサギ、3日間)の結果、皮膚刺激性は認められなかった。 皮膚腐食性／刺激性－区分外とした。
眼に対する重篤な損傷／刺激性(根拠)	眼刺激性試験(ウサギ、15日間)の結果、可逆的な軽微な眼刺激性あり。 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性－区分2Bとした。
呼吸器感作性(根拠)	データ不足のため、分類できない。
皮膚感作性(根拠)	皮膚感作性試験(モルモット、48hr)の結果、ごく僅かに軽度の皮膚感作性を認めたものの、ヒトに対する皮膚感作性については、類推できないことから、分類できないとした。
生殖細胞変異原性(根拠)	復帰突然変異試験ならびに小核変異原性試験の結果、陰性であったことから、生殖細胞変異原性－区分外とした。
発がん性(根拠)	IARCではクラス3に分類されていることから、区分外とした。
特定標的臓器／全身毒性(単回ばく露)(根拠)	データ不足のため、分類できない。
特定標的臓器／全身毒性(反復ばく露)(根拠)	データ不足のため、分類できない。
吸引性呼吸器有害性(根拠)	データ不足のため、分類できない。

12. 環境影響情報

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 藻類(緑藻)のErC50(24～72hr)が1.9mg/Lから、区分2とした。

水生環境慢性有害性 データ不足のため、分類できない。

環境影響その他
生態毒性
LC50 7.5 mg/L コイ (96hr)
EC50 3.7 mg/L オオシロコ (48hr)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報 UN No.	該当しない
	航空規制情報 UN No.	該当しない
国内規制	海上規制情報	該当しない

	国連番号 航空規制情報 国連番号	該当しない
特別安全対策		輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律(バーゼル法) 農薬取締法	廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)
--	--

16. その他の情報

参考文献	日本ケミカルデータベース(株)「化学品総合データベース」
その他	記載内容は、現時点で当社が入手した資料・データ等に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。又、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。